

2021. 11. 20

(於：東京学芸大学附属世田谷小学校)

学びを自分でデザインする子を育てる会

なぜ「学びを自分でデザインする子」 を育てることが必要なのか

藤江 康彦

(東京大学大学院教育学研究科)

「学びを自分でデザインする子」

学びが自分（たち）のものであると自覚し、
学びの目標、道筋、表現方法を思考し選択している子

デザインすることの意味

- デザイン：あるものに別の意味や役割や機能や見えを与えること（有元・岡部, 2008）
 - 与えられた世界を生きるのではなく、自分たちのための意味や役割を与え、世界を任意に操作可能にする
 - ひと・もの・ことを使いやすく変形、配置、組織する
 - アンラーン（学びほぐす）（佐伯, 2012）
 - 既製のセーターをほどいて自分の身体に合わせて編み直す
 - 制約（ルール、構造など）をつくりだす
 - 無意識の行為を自覚してことばであらわす
 - それが新たな知となる
 - 複雑で流動的な状況において実践しながら創造していく
 - 例）授業デザイン

デザインすることの意味

- 変化に適応するために必要な行為 (Rawsthorn, 2018)
 - 新たなモノや構造を創り出す
 - 自分や他者の行動を規制する
- 価値的な問題解決の行為
 - 世の中に起こるあらゆる変化—社会、政治、経済、科学、技術、文化、環境、その他—が人々にとってマイナスではなくプラスに働くように翻訳する《変革の主体》としての役割 (Rawsthorn, 2018)
- デザインは実際に経験することを通してしか理解できない (後藤, 2004)

本校でみられるであろう子どもの姿

- Laboratory（ラボ）
 - 自分のやりたい活動のために必要なひと・もの・ことを自分で選んで使いやすく配置する
 - 授業（Class）で学んだ知識に対し自分のために新たな意味や役割を与え、使えるものにする
 - うまくいったやりかたをことばで表現し友だちと共有する
- Home（ホーム）
 - 自分たちの生活環境を構築するために学校のひと・もの・ことに新たな意味や役割を与え、使いやすいものにする
 - とともに生活実践をする共同体においてルールを設定する
 - 《よりよい生活》という価値に基づく問題解決を常に行う

学校における学びにおける「主体性」

主体性

- ・ 目的・動機に基づく
- ・ 状況的なもの
- ・ 対話的なもの

生徒が社会に参画し、人々、事象、および状況をより良い方向へ進めようとする上で持つ責任を担うという感覚

(OECD生徒エージェンシー)

従来「主体性」は、、、
・ 個人に備わった能力
・ 人格特性であると、
とらえられてきた

生徒が自らの学習のエージェント (agents) であるとき、つまり何をどのように学ぶかを決定することに積極的に関与するとき、生徒はより高い学習意欲を示し、学習の目標を立てるようになるでしょう。さらにこのような生徒は、生涯を通して使うことのできる「学び方」というかけがえのないスキルを身につけていくことにもなりうるでしょう (OECD Future of Education and Skills 2030 Conceptual learning framework Concept note: Student Agency for 2030” (OECD, 2019)。

デザインという行為において・・・

「主体性」は「間」にある

子どもーヒト (教師、子ども)

ーモノ (教科書、教材、道具)

ーコト (活動、授業、教科、遊び)

主体的に学ぶこと＝人間の本来的な学びのありかたに近づく

• 学校の学び

－将来志向の学習

- 卒業後、いつでもどこでも使える知識・技能
- 子どもの生活に直結しなくても
- 抽象的、一般的な内容

－指導のある学習

- 教師が段階を追って知識を伝え、積み重ねを可能にする
- 何をどこまで教えるかは、教師が統制する
 - －だからこそきちんとした理解が可能となる
- 現実の生活の雑音を物理的、心理的、情動的に遮断して閉じられた場で限られ、与えられた課題に取り組む→教室学習のよさ

➡ ただし、学ぶ意味、切実感は抜け落ちてしまいがち
よって、「動機」づけが問題となる

主体的に学ぶこと = 人間の本来的な学びのありかたに近づく

- 人間の本来的な学び
 - 長い時間がかかる
 - 強い動機をもつ
 - 積極的に情報収集を行う
 - 議論できる仲間や教えてくれる先輩がいる
 - 試行錯誤しながら自分なりの知識を構築する
 - 学ぶ対象は限定的
 - 学んだ結果がさらなる学びを引き起こす

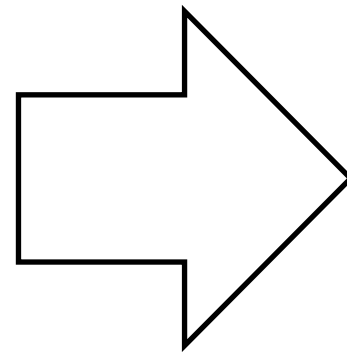
主体的に学ぶこと = 人間の本来的な学びのありかたに近づく

- 学校における学びを人間の本来的な学びのありかたに**近づける**ことが重要
 - どこまで近づけることができるか
- これからの学校教育で**追究するポイント**
 - 強い動機
 - 積極（性）
 - 仲間、先輩
 - 試行錯誤
 - 自分なり
 - 学びの連鎖

Classの可能性

教材を媒介にして科学や文化に触れ、
経験世界を拡げる

学ぶことへの
プラスの
価値づけ



「学ぶ私」というアイデンティティ
を確立する

学びをデザイン
し続ける子ども